

“ゆるふわ”なネパールに学ぶ

氏名： 野澤 恵

学校名： 私立 福知山淑徳高等学校

担当教科： 福祉科【総合学科福祉系列】 実践教科： 学校設定科目「子ども家庭福祉」

時間数： 10 時間

対象学年： 3年生

人数： 16 名

1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師海外研修を通して、今後の私の人生を豊かにする財産をいただいた。研修中、学ぶ度に思い浮かんだ言葉は「Empowerment」と「豊かさ」である。

「Empowerment」は、様々な国際協力に触れる中で、いつも感じた言葉である。国際協力とは「ともに」試行錯誤しながらつくりあげる営みで、農業支援、学校教育など直接的な目的に付随してそれらに携わる人々をEmpowerし、コミュニティ開発や人材開発をしているのだと感じた。

私はネパールを「豊かな国」と表現したい。研修を通して、「人が生きる営み」に豊かさを感じる視点を養ったからである。特にホームステイでは、村全体が家族のように支え合い、必要な食べ物も服も家も、自分たちの力でつくる姿に触れた。ステイ中、全てのものが多くの人の手を介して、温かい心と一緒に私のもとにやってきた。そうすると自ずとそれらを大切に思うし、感謝の気持ちが湧いてくる。そんな営みを、豊かで尊いと感じると同時に、ネパールの持続可能な開発のために立ち上がる姿とも感じた。

こうしてネパールの豊かさに触れると「日本の生活は…」と否定的に考えがちだが、私は「日本で暮らす私の生活も豊かだ」と考える。私の周りにも大切な人がたくさんいて、いつも支えてくれている。家庭菜園の野菜もあるし、お米を作ってくれた人とも顔見知りだ。そんな自分の周りにある一つ一つの価値を、見直すことができた。

生き方を「豊かさ」ととらえる視点を持てば、多様な生き方を肯定できる。自分を肯定することが他者を尊重することの始点であるならば、この「豊かさへの気づき」も持続可能な開発への第一歩だと考える。

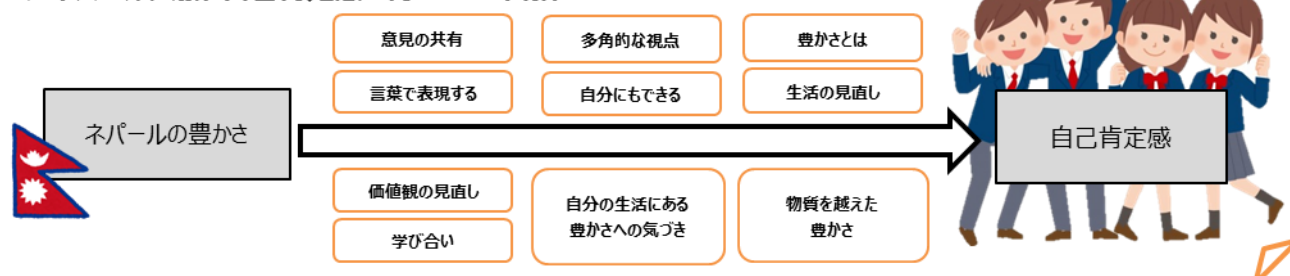
2. 授業実践

【1】テーマ・目標

- ・ネパールを通して多文化を理解し多角的に物事を捉える視点を養うことで、自己肯定感を育む。
- ・「豊かさ」とは何かを考え、自らの生き方を考える。
- ・自分の生活のあり方を見つめ直し、世界の課題を「自分事」として考える。
- ・級友と意見を交流することで、互いの学びを深め合えることを実感させる。

※生徒には「言葉を持つ」「自分事にする～知る・考える・行動する～」という目標を課した。

◆ ネパールに触れ自己肯定感を育むことを目指して



【 2 】 設定の理由

福祉系列を選択し「様々な立場の人を理解して支援すること」を学んでおり、他者の立場に心を重ねられる思いやりの深さがある。汎用性の高いこの学びを「世界」とつながるツールとし、ネパールの文化やその生き方に触れて、多角的な視点から物事を捉える力を身につけさせたい。

学習の上位目標は「自己肯定感を育む」こととした。世界を学ぶことは、同時に自分を見つめることと考えるからである。また下位目標として「ネパールへの理解」「言葉で表現する」「違いを認める」「自分と世界のつながりを考える」「豊かさについて考える」を設定した。また自らの思いを言葉にすることを避ける傾向が強い生徒達に、言葉にすることが互いの学びを生むことを実感させたい。

交通ルールやインフラ、様々な制度は未整備であるけれど、それらを超えた優しさと温かさが溢れるネパール。第1回目の授業で、生徒たちが気に入った“ゆるふわ”を単元のテーマとした。



【 3 】 展開計画

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2 限目 「ネパールどんな国？ こんな国」 ＊ネパールへの関心を深める ＊ネパールの文化を楽しむ	●目標である「言葉を持つ」「自分事にする」の意図を理解させる。 ●授業開始時と終了時にネパールへのイメージを記入して、「知る」ことでイメージがポジティブなものになることを実感させる。 ●食文化体験や現地の写真の解説を聞いて、ネパールを知る。	・チャイ、チウラ、カジャ他 ・イメージ書き込みカード ・パワーポイント ・ネパールの写真
3・4 限目 「ネパールを見つめる」 ＊ネパールへの理解を深める ＊開発途上国の課題を知る ＊ネパールの課題を知る	●フォトランゲージに隠れた、ネパールの課題に触れる。 ●次回ネパール学習会に来校される、ネパール人サビナさんが取り上げられた神戸新聞の記事でカースト制度について知る。 ●開発途上国にある、教育や福祉の課題を知る。	・パワーポイント ・神戸新聞「サビナさん」の記事 ・フォトランゲージ用写真 ・感想用紙
5・6 限目 「ネパール学習会」 ＊被災・復興状況を知る ＊文化・カースト制度を知る	●PHD 協会による講演「ネパール学習会」（NGO 相談員制度利用） ネパール人のサビナさんから震災・復興・カーストについて伺い、各々の事柄への「思い」を理解する。 ●計画・司会・進行等、生徒が運営することで主体性を持たせる。	楽器：「レッサム・フィリリ合奏」 ・ワークシート（気づきシート・感想用紙） ＊福祉系列 1・2 年生も参加
7・8 限目 「発見！ネパールの リソース」 ＊リソースを見つめる ＊今あるものの尊さに気づく	●深く知ることによって気づける「ネパールのリソース」を見つめる。 ●「あるもの探し」の視点を紹介し、淑徳高校や福祉系列のリソース、自分自身のリソースを見つめる。 ●グループで取り組み「リソース」を共有する。	・パワーポイント ・各リソース書き込みカード ・感想用紙
9・10 限目 「世界のことを “自分ごと” に～SDGs～」 ＊開発と自分の関連を知る ＊各自が SDGs の実践を考える ＊“自分ごと” にする視点	●ホセ・ムヒカ氏を取り上げた絵本を導入にし「開発」についての現実と、今後の方向性を考えるきっかけとする。 ●SDGs の 17 の目標を解説。SDGs は自分たちの生活における選択と関連することに気づかせ、実践できることを考えさせる。 ●全 5 回を振り返り、生活の中で活かしていける視点を振り返る。	・パワーポイント ・絵本「世界で一番貧しい大統領のスピーチ」 ・SDGs の解説・書き込みシート ・感想用紙
文化祭 ◆展示 「ナマステ！～ネパール～」 ◆募金 ネパール震災復興支援募金 「世界を結ぼう♡愛♡の絆」	●ネパールの生活・文化がわかる写真 ●ネパール・私たち・私のリソース / 私たちが考える「SDGs」 ●募金活動 / 手作り雑貨のチャリティバザー ＊収益は PHD 協会を通じてネパールへ	＊福祉系列生徒は全員が、国際理解についての活動を実施するインターアクト部に加入。2015 年からネパール震災復興支援募金に取り組んでいる。

1・2 時限目:「ネパールどんな国?こんな国」

ねらい…ネパールへの関心を深める・ネパールの文化を楽しむ

■ 内容 ■

- ①学習の目標を知る【全10時間】
- ②ネパールへのイメージを記入する
- ③ネパールの概要を知る
- ④ネパールの文化に触れる
- ⑤ネパールの生活や文化を知る
- ⑥ネパールへのイメージを再度記入



2015年から被災したままの家に驚く

◆生徒の反応 ～授業開始時に記入したネパールのイメージ ⇒ 授業終了時に再度記入したイメージ～

- ・ご飯がおいしそう ⇒ 日本とは違った豊かさのある国
- ・地震が多いけど避難グッズは準備していない国 ⇒ 昔からの風習を大切にしている国
- ・都市の空気が悪い、隣の家が遠い ⇒ 私たちよりも自立している国

◆ 所感 ◆

…1学期から「ネパールについて学ぶ」ことを予告しており、生徒は楽しみにしてくれていた様子であった。授業中は「すごい!」「美味しい!」など、明るい生徒の言葉が飛び交い、今後の学習に向けた導入ができたと思う。また1年次より部活動でネパール支援をしていたが、生徒たちのネパールに関する知識はかなり断片的であったと実感した。反省点は焦点化できていなかった点である。

3・4 時限目:「ネパールを見つめる」

ねらい…ネパールへの理解を深める/開発途上国ネパールの課題を知る

■ 内容 ■

- ①前回の振り返り、学習目標の確認
- ②フォトランゲージ
- ③ネパール基礎知識
- ④次回「ネパール学習会」に向けて
- ⑤カースト制度について知る
- ⑥PHD 協会研修生「サビナさん」の将来の夢
- ⑦本時のまとめ



#ハッシュタグをつけるイメージで…

◆生徒の反応 ～ 開発途上国の課題に触れて… ～

- ・カースト差別当事者のサビナさんの夢が「普通に生きること」だと知り、「重み」を感じた。
- ・前はネパールを豊かだと思ったけれど、難しい課題があることを知りました。
- ・ネパールの文化を学ぶと同時に、話したり聞いたりすることの大切さを感じました。意見を言い合えて楽しかった。

◆ 所感 ◆

…発言を避ける傾向が強く、フォトランゲージに苦戦した。各グループへの声かけやサポートに回中で生徒から「#ハッシュタグをつける感じでもいい?」という意見があり、それを共有したことでリラックスした意見交流が始まった。今回は、ネパールの課題である教育やカースト、福祉の問題を取り扱ったため、前回の温かなネパールのイメージとの差に驚く様子があった。また次回来校されるサビナさんを取り上げた新聞の記事にある「普通に生きたい」の一言の重みを感じていた。

5・6 時限目:「ネパール学習会」(福祉系列 1〜3 年生対象)

ねらい…文化祭の支援活動の事前学習/ネパール震災の被災・復興状況の理解

カースト制度を知る/ネパールの文化を知る

■ 内容 ■

- ① 歓迎セレモニー【事務局長・研修生 3 名来校】
- ② PHD 協会による講演「ネパール学習会」
 - ・ネパールについて / 震災の被災・復興
 - ・3 カ国の研修生とのグループワーク
- ③ 閉会セレモニー
 - ・感謝をこめてレッサムフィリリの合奏



ネパール・ミャンマー・インドネシア 3 カ国の話を伺う

◆ 生徒の感想 ～ネパールを含めた 3 カ国の話をうかがって一気に世界と生徒の距離が近くなった！～

- ・カースト制度についてとても胸が痛みましたが、ジェンダーギャップ指数はネパールよりも日本の方が下でそれぞれの国に課題があることを知りました。自分の村に貢献するために来日した 3 人の勇気がすごい！
- ・ネパールの震災をもっとみんなに知ってほしい。支援の届きにくいところへの募金活動なので、頑張りたい！
- ・カースト差別は、人々の心に強く残っていて解決には時間がかかると思いました。

◆ 所感 ◆

…文化祭に向けて支援先の PHD 協会を招き 1〜3 年生が参加する「ネパール学習会」を実施した。ネパール人研修生サビナさんに、震災時の様子や復興の様子はもちろんカースト差別の実際について話をうかがった。被災後の住宅再建、水汲み場等でのカースト差別に驚きを隠せない様子であったと同時に、真摯に生きるサビナさんの姿に感銘を受けていた。今回は生徒主体で運営できるよう、事前の準備に注力。プログラムにも生徒の意見を取り入れた結果、主体的な姿勢で取り組むことができた。

7・8 時限目:「発見！ネパールのリソース」

ねらい…ネパールのリソースを見つける/自分達・自分のリソースを見つける

今あるものの尊さに気づく

■ 内容 ■

- ① 前回の振り返り、学習目標の確認
- ② 発見！ネパールのリソース
- ③ あるもの探しの視点
- ④ 発見！私たちのリソース
- ⑤ 発見！「私」のリソース
- ⑥ 本時のまとめ



友達と見つけた 1 人 1 人のリソース

◆ 生徒の感想 ～ 級友にリソースを教え合う時間は、嬉しそうな笑顔でいっぱいになった ～

- ・学ばなければネパールに対していいイメージもなく、長所も全く思い浮かばなかったと思う。でもネパールの人のお話を実際に聞いたり勉強したりして、リソースをたくさん見つけることができたし、良い点がたくさんあった。
- ・あるものを探すのは思う以上に難しいけど、自分で見つけていくことが大切とわかった。
- ・学校のリソースを探して、淑徳の良さや淑徳にしかないものを見つめ直し、淑徳に入学してよかったなと思った。
- ・友達に私のリソースをたくさん出してもらって、自信ができました。嬉しかったです！

◆ 所感 ◆

・自己肯定感を育む取り組みとして、自分たち及び自分のリソースを見つめた。級友が教えてくれた「自分のリソース」に照れたり喜んだりする姿があり、感想には「友達に自分のリソースを教えてもらって自信がもてた」という記述があった。グループワークに慣れ、話し合いができるようになってきた。他者の意見が「自分の学び」となることに気づく生徒が出てきたことが大きな成果である。

・ネパールのリソースに「カースト差別を受けている人は心の痛みがわかる優しさがある」と挙げたグループがあった。一人一人を見つめて当事者を尊重する視点に感心した。

9・10 時限目:「世界のことを“自分ごと”に～SDGs～」

ねらい…開発と自分の生活の関連を知る/自分にできる SDGsを考える

世界のことを“自分ごと”とする視点を持つ

■ 内容 ■

- ①前回の振り返り、学習目標の確認
- ②「開発」を考える
- ③SDGs とは
- ④SDGs を“自分ごと”に
- ⑤本時のまとめ
- ⑥ネパール学習全体のまとめ



私たちの学校のリソース発見!

◆生徒の感想

- ・いつも心がけていることで、社会や世界のためになっていることもあるのだと感じました。
- ・SDGs の内容だけを見ると難しいけれど、小さな目標を考えれば、身近にできることがあるとわかりました。
- ・ネパールがどんな国かわかるだけでなく、日本がどのような国かを考え直すことができました。
- ・世界と聞くと他人事のように思っていたけれど、私たちの普段の生活とつながっていることを知りました。

◆ 所感 ◆

・最終回は大きく世界へと視野を広げた。ホセ・ムヒカ氏を取り上げた絵本を導入に使うことで、開発への問題提起は分かりやすくなったと思う。“SDGs を自分ごと”のグループワークは難しいと考えたため、各目標に世界の現状と日本などの先進国の現状を比較できるシートを配布し、口頭での説明を補足した。難しく感じる SDGs だが、日々の生活との関連性や、すでに実践していることがあると気づいた生徒も多い。世界に生きる一人としての責任を自覚して行動してくれることを願う。

文化祭

募金&バザー:「ネパール震災復興支援募金」

展示:「ナマステ ～ネパール～」

■ 内容 ■

「募金&チャリティバザー」

- ・手作り雑貨の販売
- ※収益は PHD 協会を通じてネパールへ

「展 示」～授業内で作成したものやネパールの写真～

- ・リソース(ネパール・私たち・私)
- ・私たちが考える「SDGs」17 の目標



手作り雑貨のバザー



教室での展示



3. 成果と課題

① 成果

研修前は授業実践への不安があったがネパールに足を運び、「生徒に伝えたい」と感じたすべてが教材と成り得ると学んだ。そして実践の中で、新しい世界に触れる機会をつくれば生徒たちは自身で学びを深めていく力があると痛感した。以下主な成果を2点挙げる。

■「多角的な視点の必要性に気づくことができた」

知れば様々な側面が見えてくることを、他の場面で汎用できるようになった点が最大の成果である。全授業終了後、施設介護実習後の反省会で介護者として大切なものとして「物事をいろんな角度から見ること」「介護の仕事や利用者をポジティブな視点で見つめること」という意見が出た。リソースやあるものの探しの視点について、取り組んだ成果だと考える。

■「豊かさについての新たな価値を得た」

豊かさについて考えることが柱の一つであったが、授業では「豊かさ」という言葉の使用を避けた。ネパールの生活や文化に触れる中で個々が感じ、価値観を培ってほしいと考えたからだ。全授業終了後しばらくして「豊かさとは何か」と問うと「生き方・ころ・笑顔」等が挙がり、「ネパールは豊かな国」と記していた。これらの思いが、生徒自身の人生の豊かさにつながることを強く願う。

② 反省

日々の学習活動の中で生徒に思いを問うと「わからない」という返答が多いが、それらは「言葉にすることを避ける傾向」と感じている。自信を持ちにくい生徒であるからこそ、日々の授業の中で自らの思いを表現する機会をつくる必要性を感じた。そうした生徒同士が認め合えるような取り組みがグループ活動を円滑にし、学級での居場所や自己肯定感につながると感じた。私自身の今後の課題となった。

◆ 生徒のワークシートから

3年生 福祉系 子ども家庭福祉
「世界のことを “自分ごと” に ～SDGs～ !!」

組 氏 名 _____

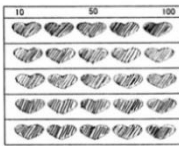
■ SDGsについて学んで思ったこと
 1つの目標を中心に7つの目標に分けて考えていく中で、その問題を改善していくためにはまず私たちの日常を見直し、その改善に少しづつかかると、いくつも大切だと感じた。

■ 世界と自分のつながりについて思ったこと
 世界を聞いたら規模が大きいので、自分ごとで考えるのは難しい。でも、よく考えてみると、それは私たちの生活の延長線上にある。だから、私たちの日常で起きている環境問題は自分ごととして、解決策を見出すことが大切だと感じた。

■ ネパールって「どんな国」？ ～深く学んだ今、思うこと～
 ネパールはカースト制度と集団的マイノリティ制度でできている。貧困、教育の格差が多く、協調性がある国だと感じた。

■ 全5回のネパール学習を終えて、今思うこと。
 ネパールは多民族国家で、それぞれがそれぞれの文化を持っている。また、自然環境も素晴らしい国だと感じた。

■ 学び度Check ～ ゆりつづいて自己評価 ～

自分事化メーター	“ことば”にしてアウトプットできた。 世界のことを考えることができた 自分にできることを考えることができた 自分ごと化！できたと思う 自分にできることを実践したいと思う	10 50 100 
----------	--	--

ダニヤバダ ～ダンネバード～

■ ネパールの学習を通して、あなたが考える「豊かさ」とは？

私が思う「豊かさ」とは、人の心豊かさを指す。そして、食べ物や住環境、仕事や収入、教育など、生活に必要なものが揃っていること。そして、自然環境や、ネパールから見たところ、豊かさは心豊かさを指す。それ以外に、必要なのは、人とのつながり、そして、ネパールは今のカースト制度という差別の存在があるけれど、ネパールの人は家族や村を大切にしている。そして、豊かさは心豊かさを指す。そして、私自身も豊かさを指す。そして、豊かさを指す。

「研修に参加して得た宝物は3つ！」

- ・ネパール現地での経験：クンチャール村、CIL、学校…。かけがえのない学び！
 - ・開発教育の実践：試行錯誤しつつ、自分で考えたこと。そして生徒の豊かさに触れた！
 - ・参加者との出会い：みんなのお陰で学びが深まった。今後もずっと教わり続けたい！
- …私の人生を豊かにする要素がたくさん詰まった研修に参加できたことに心から感謝！ スベサーサー！

